

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ここしばらく、蟻の姿などをのんびりと眺めるようなことはなかったなあ……と、思っていたら、いま目の前をそうしたことを思い出させてくれるモノが行き来する。床の上を動きまわりながらホコリを吸い集めてくれる(お掃除ロボット)である。子どものころに戻って、その様子をしばらく眺めてみたい(ロボット技術は日々進化を遂げている。不用意な誤解を避けるため、本書に登場するのは架空のお掃除ロボット(ルンル)である)。

電源スイッチらしきボタンを押してみる。すると、ピポッ、ピポッ、プーッ……という①ケイカイな電子音とともに、それは動きだした。「さて、どこからはじめようかな……」とでもいいだけに、クルリとあたりを見わたり、そしてひとたび狙いを定めると、クーンと甲高いモーター音をたてて動きはじめるのだ。

ロボットは、テーブルの下や椅子のあいだをくぐり抜けながら、床の塵やホコリをかき集め、それを吸い込んでいく。ゴツンゴツンと部屋の壁や椅子などにぶつかるたびに、その進行方向を小刻みに変える。「それだけなのかな？」としばらく様子を眺めていると、なにか思い立ったように途中で方向転換をし、部屋の反対方向へと移動しはじめたりする。あるときは壁づたいに小さくコツンコツンと当たりながら、その隅にあるホコリを丁寧にかき集めていく。

この気ままなお掃除ぶりは、はたして I 的なものなのか。同じところを行ったり来たりとチヨウブクも多そう。たぶん取りこぼしているところもあるにちがいない。それでも許してしまうのは、その健気さゆえのことだろう。

小一時間ほど走りまわると、ちよつと疲れたようにして自分の充電スタンドへと舞い戻っていく。そのすこし速度を落として、小さく腰を振る。②シヨサがかわいい。塵の収納スペースに集められたホコリや塵の量を見て、思わず「ごころうさん、よく頑張ったね」と労いの言葉をかけそうになる。

これまでの家電とはどこか趣がちがうようだ。そのロボットの動きを思わず追いかけてしまう。「どこに向か

おうとしているのか、なにを考えているのか」と、その行く手をさえぎるなどして、いたずらをしてみたくなる。あるいはすこし先回りをしながら、床の上に無造作に置かれた紙袋を拾い上げ、部屋の片隅にある乱雑なケーブル類を束ねていたりする。これもロボットのためなのだ……。①あれれ？
①これは主客転倒ということになってしまっているか」と思いつつも、それはそれで許してしまう。ロボットにお掃除をしてもらうのはうれしいけれど、ほんのすこし手助けになれているという感覚も捨てがたい。

このロボットが袋小路に入り込むことのないように、テーブルや椅子を整然と並べなおす。もっと動きやすくしてあげようと、観葉植物の鉢などのレイアウトを変え、玄関のスリッパをせつせと下駄箱に戻す。そうしたことを重ねていると、なんだか楽しくなってくる。そして、いつの間にか家のなかは整然と片づいていたりする。いったい誰がこの部屋を片づけたのか。わたしが一人でおこなっていたわけではないし、このロボットの働きだけでもない。一緒に片づけていた、あるいはこのロボットはわたしたちを味方につけながら、ちゃっかかり部屋をきれいにしていたとはいえないだろうか。

そもそも、部屋の隅のコードを巻き込んでギブアップしてしまう、床に置かれたスリッパをひきずり回したり、段差のある玄関から落ちてしまうとそこから這い上がれないというのは、これまでの家電製品であれば、改善すべき欠点そのものだろう。

ところがどうだろう。このロボットの(弱さ)は、わたしたちにお掃除に参加する余地を残してくれている。あるいは一緒に掃除をするという共同性のようなものを引きだしている。加えて、「部屋のなかをすつきりと片づけられた」という達成感をも与えてくれる。②なんとも不思議な存在なのである。

それと、このロボットが味方につけていたのは、わたしたちばかりではないようだ。もうすこし、このお掃除ロボットの行動様式を見ておこう。

このロボットを体育館のような、もうすこし広い部屋で走らせてみたらどうか。なにも障害物のないところでは、とりあえず一直線に走りだすことだろう。しばらくして壁にぶつかる、そこから弾かれるようにして、他

の方向にまた走りだしていく。

それはビリヤードの玉の動きのようなものかもしれない。狭いところを小刻みに動くのとはちがって、その直線的な動きからは、なぜか生き物らしさは消え失せてしまう。このロボットの小刻みな動きにあった、甲斐甲斐しさも薄れるのである。

これはどうしてなのか。狭い部屋にあつては、いろいろなところにゴツンゴツンとぶつかりつつ、そのことで部屋のなかを縦横に動きまわることができた。その進行の邪魔になると思われた椅子やテーブルの存在も、ロボットをランダムな方向へと導き、部屋をまんべんなく動き回るような振る舞いを生みだすために一役買っている。つまり、このロボットは部屋の壁や椅子、テーブルなどを上手に味方につけつつ、部屋のなかをまんべんなく掃除していたのである。

このロボットの健気さや生き物らしさというのも、⁽³⁾そんなところから生み出されていたのだろう。壁にぶつかると先には進めないと判断し、あらたな進行方向を選びなおす。これをくりかえすだけなのに、その忙しさも手伝ってか、それなりに懸命に仕事をしているように見えてしまう。もとを辿れば、この甲斐甲斐しく働く姿というのは、部屋のなかにある椅子やテーブルなどと一緒に作りだされたものなのだ。

ではもうすこしこのロボットが進化をして、彼(彼女)なりのプランで部屋のなかを掃除しはじめるならどうだろう。

まず部屋のなかを一通り動きまわり、その大きさや形を把握し、そこでの椅子やテーブルの位置関係を把握する。あとは、この部屋にもっとも適したルートでのお掃除のプランをたて、実行に移すだけだ。その動きに無駄はなくなることだろう。そしてホコリを取りこぼすこともすくなくなる。ロボットに知性が備わるとは、本来は⁽⁴⁾このようなことを指していたのだろうと思う。

ただ、ここですこし気になるのは、この進化したロボットは、周りにある壁や椅子を味方にするのではなく、むしろ障害物ととらえてしまうことだ。その掃除を手助けしてあげようと、椅子を並べなおそうものなら、当初

のプランからずれてしまい、その椅子はロボットにとつての邪魔ものになってしまう。いまにも「せっかくのプランが台無しじゃない。邪魔しないでよー」という声が聞こえてきそうである。なぜか関わりも否定されているようで、なにも手が出せないのだ。

部屋の壁や椅子を味方につけながら(そのことを意識しているかどうかはおいておくとして……)、結果として部屋のなかをまんべんなくお掃除してしまうロボット、それとプランをたてながらテキパキとお掃除をするちよつと進化したロボット。前者はちよつとゆきあたりばつたりで、あまり深く考え込むことのないⅡ派タイプだろうか。後者はやや慎重に行動を選ぶけれど、なかなかⅢに振る舞えない熟考派タイプ。さてどちらがスマートといえるのか。(中略)

Ⅱ派か、熟考派か、あなたはどちらを選ぶのか」というのは好みの問題かもしれない。けれども、前者のゆきあたりばつたりでの行動様式にも学ぶところはありそうだ。その一つは「とりあえず動いてみよう」という姿勢だろう。いい加減にも思えるけれど、そのことで⁽⁵⁾周りにあるモノや制約を生かしつつ、一つの物事を成し遂げてもいた。それと「偶然の出会いを一つの価値に変えている」というような側面もある。後者の熟考派タイプは、几帳面に淡々と物事をこなせるように見えるけれど、こうした意外性には欠けるようなのである。

(岡田美智男「弱いロボット」の思考 わたし・身体・コミュニケーション)より。出題にあたり、原文の表記を一部改めました。

問1 線①②③と同じ漢字を使うものを次のア～エの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

① ケイカイ

- ア これはケイシキ的な質問です。
イ 階段から落ちたがケイシヨウですんだ。
ウ 夜はケイビインが見回りをしている。
エ ケイケンして初めてわかることもある。

② チョウフク

- ア フクザツな気持ちになる。
イ 生徒会フクカイチョウに立候補する。
ウ コウフクをかみしめる。
エ オウフク運賃は三百円です。

③ ショサ

- ア これがサイシヨで最後のチャンスだ。
イ いらなくなった家具をショボンする。
ウ ショジヨウにより、会議は延期する。
エ あなたの家のバシヨを説明してください。

問2 線Iにあてはまる言葉としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 一般 いっぽん イ 科学 ウ 効率 エ 計画

問3 線(1)「これでは主客転倒ということになってしまわないか」とありますが、この場合の「主

客転倒」とはどのようなことですか。その説明としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分で掃除をするつもりはなかったが、ロボットが掃除をするよう仕向けているということ。
イ ロボットに掃除をさせているはずだったのに、自分がロボットのために片づけをしていること。
ウ ロボットのために片づけをすることによって、ほかの大事な仕事ができなくなってしまったこと。
エ ロボットの気ままな掃除ぶりが見るにたえないので、結局自分も片づけの手助けをしてしまうこと。

問4 線(2)「なんとも不思議な存在なのである」とありますが、どのような点が「不思議」なのですか。

その説明としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア これまでの家電製品の常識からすると欠点にしか見えない部分だが、実は人間と一緒に掃除をするという共同性を引き出してくれている点。
イ 見た目や動きにかわいらしさや健気さが加わることで、今まで家電製品には感じることもなかった愛着の気持ち自然とわきおこる点。
ウ お掃除ロボットとしての欠点を見せることで人間を味方につけ、ちゃっかり部屋をきれいにしてしまうしただたかなところを持っている点。
エ 自分の〈弱さ〉を逆手にとって、人間ばかりか部屋の中の家具類までも味方につけて、部屋の中をまんべんなくきれいにしてしまう点。

- 問5 ——線(3)「そんなところから生み出されていたのだろう」とありますが、「そんなところ」とはどのようなところですか。その説明としてもっとも適切なものを次のア、イの中から一つ選び、記号で答えなさい。
- ア せまい部屋の中を、小刻みに動きまわりながら、きびきびと掃除をするところ。
 - イ せまい部屋の中をせわしなく移動するため、何度も壁にぶつかってしまうところ。
 - ウ 部屋の中の壁や家具を利用しながら動いているため、ランダムに動きまわれるところ。
 - エ 部屋の壁や家具にぶつかっても、そのたびに新たな道を探しつつ掃除をしているところ。

問6 ——線(4)「このようなこと」とありますが、「このようなこと」とはどのようなことですか。その説明としてもっとも適切なものを次のア、イの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 周囲の状況じょうきょうを的確に理解したうえで、その部屋に合った計画を立てつつ、人間の期待に応えようと慎重に掃除をすること。
- イ 周囲の状況を科学的に分析ぶんせきしたうえで、理想的なプランを立てる一方、周りがある壁や椅子を障害物としてとらえること。
- ウ 周囲の状況をあらかじめ把握したうえで、その状況に適した合理的な方法を用いて、なすべき仕事を過不足なく行うこと。
- エ 周囲の状況を最初に調査したうえで、その状況に最も合った方法で仕事をすることで、人間が要求する以上の結果を出すこと。

問7 ——線(5)「このように」とありますが、「このように」とはどのようなことですか。その説明としてもっとも適切なものを次のア、イの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自由自在
- イ 臨機応変
- ウ 八方美人
- エ 単純明快

問9 ——線(5)「周りにあるモノや制約を生かしつつ」とありますが、お掃除ロボットに対して「周りにあるモノや制約」はどのような役割を果たしますか。それを具体的に述べた部分を本文中から四十五字でぬき出し、最初と最後の四字で答えなさい。(句読点、記号等も字数に数えます。)

問10 本文の内容と合うものを次のア、イの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 現在のお掃除ロボットは、何も障害物のないところでは直線的な動きが中心となって小刻みな動きを失ってしまふことになるため、部屋を完全にきれいにしてもらうためには、家具などの障害物がある程度置く必要がある。
- イ 現在のお掃除ロボットと、進化したロボットとはそれぞれ人間の行動パターンに重ねることができ、今のロボットに通じる性質を持つ人間の方が、進化したロボットの性質を持つ人間よりも意外性を持っていてすぐれていると言える。
- ウ 現在のお掃除ロボットには、改善すべき欠点が多くあるが、そうした弱点が周りの手助けを上手に引きだし、結果として部屋を掃除するという目的を果たしてしまうという点で、人間と持ちつ持たれつ関係を生み出している。
- エ 現在のお掃除ロボットでは、障害物の程度によって作業が進むか中断するかが変わってくるが、将来のロボットではどんな障害も乗り越えて作業できるようになることが予想され、人間はロボットへの余計な手助けから解放される。

〔二〕 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

兄の家の扉をあけると、〔1〕二人の姪っ子が放つ甲高い声が響いてきた。父の病気がわかって以降、この扉をあける度に漂ってきた死の匂いは、子供たちの笑い声で一瞬にして吹き消されたようだった。急いで靴を脱ぎ、居間へと向かう。

「あ、しぐさちゃん」
里菜が手をとめた。

「しぐさちゃん」

里香もオウムのように姉の言葉を繰り返すが、こちらは手元の粘土が気になって視線をあげようとはしない。

「おかえり」

美奈ちゃんがにっこりと微笑んで言った。ただいまと言って荷物を降ろし、私は仕事帰りのおじさんみたいにドスの利いたため息をついた。

「仕事、忙しいの？」

「今はそんなでもない」

「やりたいことできてる？」

そう訊ねる美奈ちゃん目が輝いていた。やりたいことなど入社以来何ひとつ出来ていなかったけれど、まああかなと言って〔2〕お茶を濁した。美奈ちゃんに何を言っても、宇宙規模の※¹ポジティブシンキングで返されることを、私は知っているからだ。美奈ちゃんは言った。

「ちよっと質問んだけどね、しぐさちゃんさ、プールとか温泉の脱衣場にいると、どんな気持ちがする？」

〔3〕かなり角度のついた質問だと思った。少なくとも、久々に交わす身内の会話としてはあまりにも放り投げすぎている。

「どんなって、どういう意味？」

「なんだか哀しい気持ちとか、グズグズした気持ちになる？」

美奈ちゃんの勢いは止まらなかった。

「うーん、なんだか、ちよっと、じめっとしたような、そうだな……あんまり気持ちがよくはないかな。出来れば早くそこから出たい。でもなんだか、出たくないような気も……」

「〔4〕やっぱりね」

あくまで適当に答えたのに、美奈ちゃんは心底満足そうな顔を見せた。

「私もね、小さい時からそうだったの。なんだかプールとか温泉で、あの濡れたタイルとかはじめじめした脱衣場にいると、ものすごく哀しくなってるね、心臓がぐわっと掴まれて、泣き出したいような気持ちになることがあったの。それを大人になってもずっと不思議に思ってたんだけど、この前子供たちをプールに入れながら、急にわかったんだよ」

美奈ちゃんはそのひと呼吸ついた。

「何が……わかったのかな」

「それはね、生まれてくる哀しみなんだよ」

美奈ちゃんは渾身の力を込めて言った。

「生まれてくる哀しみ」

そう繰り返しながら、〔5〕この話を私以外にも誰か聞いているかなと辺りを見回してみたけれど、近くに家族は誰もいなかった。

「そう。赤ちゃんがね、お母さんのお腹の中にいて、水の中を泳いでいるでしょ。でも生まれる時に細くて暗い道を通って、この世に出てくる訳じゃない。ああ出来ればこのままここにいたいな。外に出たら、いっぱい辛いことあるかもしれないしな。このままチャプチャプやってたいのについて思いながらも、命がけでその道を通って

くるじゃない。それでついに出了時の、まだ体中が濡れている感じ。出ちゃったけど心はまだ水の中であって、その中途半端な感じを、プールとか温泉の脱衣場にいると思ひ出すんだよ」

美奈ちゃんはそのままでを一気に語った。

「美奈ちゃんそれ、ずっと考えてたの？」

「そう。ずっと不思議だったの。でも子供を産んで、子供を通じてわかった。そしてそれが私一人の感覚じゃなかったって今知って、なんだかすごく嬉しい」

そう言って美奈ちゃんは再び満面の笑みを浮かべた。

美奈ちゃんがこういう※2 スピリチュアルな話をするのは今日に始まったことではなく、根本的に皮肉屋に出来ている私たち家族を度々驚愕させるのだが、本人は至って真面目で心底楽しそうに太陽と月の動きなどを壮大に語り続ける。その上良妻賢母で運動神経が並外れているときたものだから、どの方面から突っ込んでいいのかわからない。そして私が何よりも驚くのは、現実こそわが命と書かれたマントを四六時中身にまとった夫である兄と美奈ちゃんが、学生時代からの付き合いを経て以来、完璧な番いの形を崩していないことだ。

(6) 美奈ちゃんは、両手でこめかみを押さえる私にまったく臆することなく、この本もう読んだからしぐさちゃんにあげるねと言って『愛の言霊が教える神秘の力』と書かれた単行本を差し出した。

その時、隣室から子供たちの甲高い笑い声が聞こえてきた。先ほどまでここにいた二人はすでに遊びに飽きたのか、父が横になっていた和室に移動して遊んでいるようだ。和室をのぞくと、二人の傍らには、ぽっかりと腹の出た父親が、これから解剖されるマグロのようなぶざまな姿で横たわっていた。

「何してんの？」

私は訊ねた。

「ドクターごっこ」

里菜が答える。

「じいじの病気をなおします」

里香がおもちゃの注射器を父の腕に勢いよく刺した。

「いたー」

(7) 父は大げさにおどけてみせる。

「がんばって下さい、これでじいじの病気はなおります」

「がんばって下さい」

ふたりが交互に声をかけるので、どちらが医師でどちらが看護師なのかもわからない状態だ。

「治りますかね？」

父が横目で訊ねる。すると里菜が答えた。

「うーん、ちよつとすぐは難しいですね」

「ではとりますよ。はい、チーズ」

里香が手にしていた子供用カメラのボタンをカシヤリと押した。

※3 CT撮るのに、ここのお医者さんは『はいチーズ』って言うんですか？」

父が笑った。

私も、母も、声をききつけてやってきた兄夫婦も、姉夫婦も皆が笑った。(8) 今はこちらで笑っておくべきだと、しめしあわせたかのように。

(砂田麻美『音のない花火』より。)

(注) ※1 ポジティブシンキング……前向きな考え方。

※2 スピリチュアル……精神的。

※3 CT……エックス線で体の断面を撮影する検査。

問1 ——線(1)「二人の姪っ子が放つ甲高い声が響いてきた」とありますが、この時の「私」の気持ちの説明として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 父の病気が気になるものの、明るい表情で家に入ろうと気持ちを切りかえるきっかけとして考えている。
- イ ふだんは物音一つないはずの家からにぎやかな声が聞こえるので、どうしたらよいかとまどっている。
- ウ 家の中で大声で笑っている子供たちの姿を思い浮かべ、くよくよ悩んでいるだけの自分を反省している。
- エ 通常は不安な気持ちで家に入ろうとするのだが、この日は心配をせずに帰りを伝えられると思っている。

問2 ——線(2)「お茶を濁した」の本文中での意味としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 良くも悪くもどちらとも取れるような返事をした。
- イ いいかげんなことを言っただけでその場をやり過ごした。
- ウ 説明が難しいために簡単な答えだけで終わらせた。
- エ 心配をかけないように事実と異なることを言った。

問3 ——線(3)「かなり角度のついた質問」とはどのような質問ですか。もっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 質問者のたずねていることの真意がすぐには見えてこないもので、どう答えて良いのかわかりにくい質問。
- イ 質問者のたずねていることがふだん全く考えていなかったことなので、すぐに答えが見つげづらい質問。
- ウ 質問者のたずねていることの内容がさまざまの意味に取れるために、一つに答えをしばらくきれない質問。
- エ 質問者のたずねていることが自分の心をうかがうものであるために、できれば答えたくないような質問。

問4 ——線(4)「やっぱりね」とありますが、「美奈ちゃん」がこのように言ったのはなぜですか。その理由を説明した次の文の□にあてはまる言葉を本文中から七字でぬき出して答えなさい。(句読点、記号等も字数に数えます。)

脱衣場にいる時、自分と同じように「私」も□を持つのだと受け取ったから。

問5 ——線(5)「この話を私以外にも誰か聞いているかなと辺りを見回してみた」とありますが、「私」が「辺りを見回し」たくなった理由としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「美奈ちゃん」の話が正しいことなのかまちがっていることなのか判断することができないために、だれか別な人の意見を聞きたいと思ったから。
- イ 「美奈ちゃん」の熱のこもった話には人間が生まれた時から持っている心が表されているので、他の家族にもぜひとも聞かせたいと思ったから。
- ウ 独特の感性がつかみとった「美奈ちゃん」の話から解放されたく思っ、だれか別な人に「美奈ちゃん」の話を引き受けてもらいたいと思ったから。
- エ いつのまにか引き込まれてしまった「美奈ちゃん」の話から離れて現実の家の様子を考えなければと思、父の具合を確かめたいと思ったから。

問6 ——線(6)「美奈ちゃんは、両手でこめかみを押さえる私にまったく臆することなく」とありますが、ここから読み取れる「美奈ちゃん」の性格としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「美奈ちゃん」の話についていけずにいる「私」のとまどいなど一切気にしないマイペースな性格。
- イ 体のぐあいが悪くなっている「私」をそのままにして、先へ先へと話を進めていく自分中心な性格。
- ウ 考えを整理しようとしている「私」の手助けになるように、わかりやすい話を持ち出す優しい性格。
- エ 「美奈ちゃん」の行動にあきれはてている「私」を見ないようにして次の話を始める計算高い性格。

問7 ——線(7)「父は大ききにおどけてみせる」とありますが、この時の「父」の気持ちとしてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 遊びにしっかり参加することで、自分の病気を気にかけてくれている子どもたちの思いにこたえたい。
- イ 子どもたちが打った注射が思ったよりも痛かったが、余計な心配をかけないように明るくふるまおう。
- ウ 病気で横になっている今の自分にできることは、子どもたちに自分との思い出を残してあげることだ。
- エ 病気を治せると本気で信じている子どもたちに対し、ぜひとも感謝の気持ちを伝えなければならぬ。

問8 ——線(8)「今はこうして笑っておくべきだと、しめしあわせたかのように」とありますが、ここから読み取れることとしてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「ドクターごっこ」という子どもたちの遊びに笑っている父を見て、明日どんなに悪いことが起ころうとも今日の思い出があれば乗りこえることができるとみんなが思ったということ。
- イ 子どもたちは「CT」を写真と同じように思ってしまったが、それが思わぬ父の笑顔につながったので、今はまちがいをあえて直さないうまにしておこうとみんなが思ったということ。
- ウ 遊びの中で父の病気が治りにくいことをうっかり本人に言ってしまった子どもをしっかりとりたいが、父が気にしてはいないようなので、心からほっとしたようにみんなが思ったということ。
- エ 子どもたちとのやりとりで父の笑い声生まれ、家の中のふんいきが変わったので、この一時だけでも父の病気を忘れて笑いの中にも忘れていたいとみんなが思ったということ。

問9 本文の説明としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「じめつと」「チャプチャプ」「ぽっかりと」などという感覚的な言葉が多く用いられていて、物語全体に明るくユーモラスな印象を与えるのに成功している。
- イ 子どもたちと大人の会話を入れることでテンポの良さが生じて現実感が出ると同時に、父の重い病氣によって生まれる暗さを弱めるような効果も生んでいる。
- ウ 生まれてきたころを思い出す場面をさりげなく入れ、みんなが健康で楽しかった昔にもどれるものならもどりたいという家族のかなわぬ願いを強調している。
- エ 「おじさんみたい」「マグロのような」といったたとえの多用は、父の病氣という重い事実から何とかして目をそらすとする家族の思いの表れとなっている。

二

一

問 9

問 7

問 5

問 4

問 3

問 2

問 1

問 8

問 6

問 10

問 9

問 7

問 5

問 3

問 2

問 1

問 8

問 6

問 4

受験番号
氏名

--	--	--	--	--	--	--

二の得点

--	--	--	--	--	--	--

一の得点

①

②

③

総得点